

令和元年(平成30年度事業)美瑛町まちづくり評価一覧表

| 番号 | 事業・施策 | 所管 | 区分※ | 総合評価 |
|----|---------------------|-----------|-----|------|
| 1 | まちづくり寄附管理事業 | 総務課 | 事 | 継続 |
| 2 | 情報戦略推進事業 | 総務課 | 事 | 継続 |
| 3 | 日本で最も美しい村推進事業 | 政策調整課 | 事 | 継続 |
| 4 | 美瑛高等学校教育環境振興補助事業 | 政策調整課 | 事 | 継続 |
| 5 | 景観づくり推進事業 | 政策調整課 | 事 | 継続 |
| 6 | 蜂駆除事業 | 住民生活課 | 事 | 継続 |
| 7 | 介護予防・日常生活支援総合事業 | 保健福祉課 | 事 | 継続 |
| 8 | 産後母子ケア費用助成事業 | 保健福祉課 | 事 | 継続 |
| 9 | 白金エリア再構築事業 | 経済文化振興課 | 公 | |
| 10 | 町民プール建設事業 | 文化スポーツ推進室 | 公 | |
| 11 | 人づくり育成事業 | 文化スポーツ推進室 | 事 | 継続 |
| 12 | アグリパートナー協議会負担金 | 農業委員会 | 事 | 継続 |
| 13 | 家畜自衛防疫補助事業 | 農林課 | 事 | 継続 |
| 14 | 林産業担い手対策補助事業 | 農林課 | 事 | 継続 |
| 15 | 町道 朗根内上俵真布線道路改良舗装工事 | 建設水道課 | 公 | |
| 16 | 町道 美沢17線道路改良舗装工事 | 建設水道課 | 公 | |
| 17 | 町道 北瑛旭第6線道路改良舗装工事 | 建設水道課 | 公 | |
| 18 | 町道 美園村山線道路改良舗装工事 | 建設水道課 | 公 | |
| 19 | 町道 旭千代ヶ岡線道路改良舗装工事 | 建設水道課 | 公 | |
| 20 | 町道 美望ヶ原ビルヶ線道路改良舗装工事 | 建設水道課 | 公 | |
| 21 | 町道 旭美瑛線道路改良舗装工事 | 建設水道課 | 公 | |
| 22 | 町道 白金美瑛支線両泉橋架換工事 | 建設水道課 | 公 | |
| 23 | 丸山公園改修事業 | 建設水道課 | 公 | |
| 24 | 憩ヶ森公園改修事業 | 建設水道課 | 公 | |
| 25 | 丸山通り線道路整備事業 | 建設水道課 | 公 | |
| 26 | 街路灯管理事業 | 建設水道課 | 事 | 継続 |
| 27 | 小学生学習ルーム事業 | 教育委員会 | 事 | 継続 |
| 28 | 土曜学習事業 | 教育委員会 | 事 | 継続 |

※ 政:政策評価 事:事務事業評価 公:公共事業評価 再:公共事業再評価

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係):総務課総務係

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|--|-------|---------|-----|---------|------------|
| 事務事業名 | まちづくり寄附管理事業 | 事業年度 | 平成20年度～ | | | |
| 事業目的 | ふるさと納税の受け入れにより町をPRするとともに、個性豊かで活力あるまちづくりに寄与する。 | | | | | |
| 事業概要 | ①寄附いただいた方に対する返礼品の購入と周知用のポスター、パンフレットの印刷 ②ふるさとチョイスHP掲載と公金収納代行システムの活用 ③ふるさと納税管理システムの運用 【30年度寄附実績】 寄附者4,577件 寄附額128,302千円 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 32,411,421 | | | | | 32,411,421 |
| 事業費内訳 | 返礼品購入代:30,604千円 ポスター等印刷代:171千円 HP掲載、公金収納システム、管理システム等手数料:1,637千円 合計32,411,421円 | | | 備考 | | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|-------------------------------|------|-------|------|---|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 寄附者 | 把握方法 | メール | | |
| | 意図・内容 | ジャンルを問わず、寄附者の意思により自由なコメントを募集 | | | | |
| | 意見・反応等 | 美瑛町の景観や返礼品に対し、好感的な反応がほとんどである。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | - | 評価点 | - | 評価内容 | - |
| | 過去の評価に対する分析 | | - | | | |
| 要望の有無 | あり | なし | 要望内容 | 事業の継続 | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------------|--|------------------------------------|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | これまでの実績を考慮しても、事業の継続実施は必須である。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 寄附額に対し経費は半分以下であり、財源のひとつとして貴重である。 | 5 | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 外部委託は考えられるが、現状の規模であれば町が実施すべきと判断する。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | HPの活用やシステムの導入により、効率よく実施できていると判断する。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 町内特産品の調査など、直接店舗に向くなどして常に把握に努めている。 | 5 | |
| 合計 | 24 | | 24 | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 事業実施から寄附額は常に増加している状況であり、この状態を維持すべく新たな返礼品やサービスの選定に苦慮している。専用サイトへの掲載を増やすことにより寄附額のさらなる増加が期待できるが、かかる経費とのバランスが課題となってくると思われる。 | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係):総務課情報管理係

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|---|-------|------|--------|---------|---------|
| 事務事業名 | 情報戦略推進事業 | | 事業年度 | 平成30年度 | | |
| 事業目的 | 町全体の情報発信の取り組みの一つであるホームページについて、美瑛町の一貫したデザインテイストを盛り込み、SNSなどのコミュニケーションツールとの連携やウェブ解析データをもとに、ニーズに合致したコンテンツを配信する。 | | | | | |
| 事業概要 | H28年度にリニューアルした美瑛町ホームページの運用 ホームページで使用する画像・動画等の編集用ソフトのライセンス更新 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 971,930 | | | | | 971,930 |
| 事業費内訳 | 需用費96,120円 委託料842,400円 備品購入費33,410円 合計971,930円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|---|------|-------|-------|---|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | ホームページの閲覧者 | | 把握方法 | アクセス数 | |
| | 意図・内容 | 月ごとのアクセス数や、アクセス数の多いページを分析 | | | | |
| | 意見・反応等 | H29の総アクセス数626,749件からH30は715,314件まで増加(88,565件の増) | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | - | 評価点 | - | 評価内容 | - |
| | 過去の評価に対する分析 | | | | | |
| 要望の有無 | あり | なし | 要望内容 | 事業の継続 | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------|-----|--|------|--|
| 事業の必要性 | 5 | あらゆる情報がインターネットから取得される時代であり、町のホームページに情報を集約し、発信していくことが必要。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | ホームページへのアクセス数が順調に増加しており、災害時におけるアクセス数も多く、事業効果は大きい。 | 5 | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 正確かつ迅速な情報発信を行う必要があるため、町が実施することが妥当である。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | コンテンツ管理システムの導入により、効率よく事業を実施できている。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 2 | ホームページ全体へのアクセス数は伸びているが、町内・町外の内訳を確認する方法がないため、町民ニーズの把握は困難。 | 3 | アクセス数の分析は行っているが、事業目的に位置付けているニーズの把握に努める必要がある。 |
| 合計 | 21 | | 22 | |

| | | | | |
|--------------------|--|--|--|--|
| 説明 (現状分析・改善点等) | 常に最新の情報を発信していくため、各部署と情報共有を密にすることと、災害時等において、町民等が正確な情報を迅速に取得できるよう、引き続き適切な管理運営を行っていく。 | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 政策調整課

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|---|-------|--------|-----|-----------|-----------|
| 事務事業名 | 日本で最も美しい村推進事業 | 事業年度 | 平成17年～ | | | |
| 事業目的 | 「日本で最も美しい村」連合の活動理念に基づき地域資源である景観、環境及び文化の保全並びにその活動を図るため、町民みんなで美しい村運動を推進し、町内外への普及促進を図る。 | | | | | |
| 事業概要 | 美瑛町の地域資源である景観、環境及び文化の保全並びにその活用を図るため、町民と共に美しい村づくり活動を推進する。(加盟村としての連合の各種会議や総会の出席、連合年会費、美瑛町日本で最も美しい村づくり協議会活動への支援など) ※美瑛町における美しい村活動… 小学校ふるさと学習・花植え事業 小学校3年生児童83名、老人クラブ連合会5名、「美しい村びえい」をテーマにした絵画コンクール 出展作品数 233点、その他例年実施している景観修景、植樹、清掃美化活動は中止 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 5,880,083 | | | | 4,669,000 | 1,211,083 |
| 事業費内訳 | 旅費858,197円、需用費259,000円、使用料及び賃借料1,210,000円、負担金及び交付金3,552,886円 合計5,880,083円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|--|---|--------------|------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 全町民 | 把握方法 | 事業実施による聞き取り等 | | |
| | 意図・内容 | 本町特有の農村景観をはじめとする地域資源を活かし、美しい村としての自立を目指す取り組みを推進してきた。 | | | | |
| | 意見・反応等 | 町民にもほぼ浸透しており、社会的認知も向上してきた。全国加盟町村とともにスケールメリットを活かした情報発信、地域資源の価値の向上につながる取り組みが進められてきている。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 23 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | 住民が主体となった美しい村づくり活動を推進するとともに、連合事務局や北海道連携会議等と連携した取り組みによって、効果的に情報発信することが重要である。 | | | |
| 要望の有無 | あり・なし | 要望内容 | 事業の継続 | | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 | |
|------------------|--|---|------|-------|--|
| 事業の必要性 | 5 | 地域の魅力を発信する手段として、また、自立した地域づくりを行う上で必要である。 | 5 | | |
| 事業効果 | 5 | 連合発起の自治体として対外的に注目度が向上し、メディア等の露出機会も多い。 | 5 | | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 行政だけでなく、事業者、町民を巻き込んで美しい村の取組みを推進することが重要。 | 5 | | |
| 事業の効率性 | 4 | 活動が浸透しているが、更に活動を広めていく必要がある。 | 4 | | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 町民に対して名称・ロゴは知られて来ているが、町民全体による活動の推進が必要。 | 4 | | |
| 合計 | 23 | | 23 | | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 美瑛町日本で最も美しい村づくり協議会主催による缶トリート作戦、花の植栽、植樹会(地震により中止)、絵画コンクールなど、子どもからお年寄りまで多くの町民の参加による美しい村活動を実施した。継続して実施されているため、ある程度活動は浸透してきているが、参加者は協議会加盟団体が主となり、幅広く町民への活動の推進が必要。今後は景観に対する考え方や意識面の向上にも注力する必要がある。 | | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の | | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 政策調整課

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|--|-------|------|-----------|-----------|-------|
| 事務事業名 | 美瑛高等学校教育環境振興補助事業 | | 事業年度 | 平成18年～ | | |
| 事業目的 | 少子化による生徒の減少により、統廃合が検討されている美瑛高等学校の生徒募集や就学、生徒会活動に支援を行い、地域の教育環境振興を図る。 | | | | | |
| 事業概要 | 美瑛高等学校教育振興後援会が行う 1)生徒募集の支援、2)就学支援、3)地域振興に係る支援に加え、入学準備補助、通学補助、資格取得試験補助などを行う。 ※美瑛高校入学者数推移(括弧内は町内者) H30:52人(19人) H29:43人(9人) H28:54人(12人) H27:51人(17人) H26:65人(15人) | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 11,932,668 | | | 5,600,000 | 6,330,000 | 2,668 |
| 事業費内訳 | 負担金補助及び交付金:11,932,668円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|---|---|-----------|-------------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 事業対象者 | | 把握方法 | 学校における聞き取り等 | |
| | 意図・内容 | 通学費等の対象者への直接支援や特色ある学校づくり、地域でのボランティア活動など | | | | |
| | 意見・反応等 | 高校を決める際の判断材料の一つとしてあげられている。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 24 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | これまでの教育支援に加え、通学補助、入学準備補助、資格取得試験補助などを行うことによる一定の効果はあるが、少子化の中、さらに本町の特色を活かした独自の魅力ある高校づくりが求められる。 | | | |
| 要望の有無 | あり | なし | 要望内容 | 補助金の継続を要望 | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 | |
|--------------------|---|--|------|-------|--|
| 事業の必要性 | 5 | 本町の人づくりのため重要な位置づけであり町が積極的に支援する必要がある。 | 5 | | |
| 事業効果 | 5 | 生徒数の減少に一定の効果を上げているとともに、事業内容の拡充により、町内からの進学者が増えていることから、事業効果が現れている。 | 5 | | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 町内唯一の高等学校の教育振興に対し、町が支援することは妥当である。 | 5 | | |
| 事業の効率性 | 5 | 高等学校において取りまとめを行っているため効率的に事業実施されている。 | 5 | | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 美瑛高等学校の地域貢献活動に対して、町民からの評価が高いが、魅力ある高校づくりが求められている。 | 4 | | |
| 合計 | 24 | | 24 | | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 少子化に伴い子どもの絶対数が減少する中、高等学校においては学級数が減少し、また学校再編などが進められている状況である。そのような中で美瑛高校では、平成30年度に導入したコミュニティ・スクールを進めながら地域と連携した特色ある学校づくり、カリキュラムを構築し、美瑛高等学校後援会や美瑛町地域教育推進会議、美瑛高校教育推進会議においてもこれからの高校づくりについて引き続き検討する。 | | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 政策調整課

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|---|---------|------|------|-----------|--------|
| 事務事業名 | 景観づくり推進事業 | | | 事業年度 | 平成29年～ | |
| 事業目的 | 「美瑛町の美しい景観を守り育てる条例」に基づき、美瑛町全体で美しい景観の保全と形成を推進するための取り組みを実施する。 | | | | | |
| 事業概要 | 景観重要建造物(指定3件)及び景観重要樹木(指定4件)の保全等と景観づくりに寄与する行為に対して助成を行うとともに、町民が主体となり景観づくり事業を実施するために景観まちづくりセミナー(H29:3回、H30:2回(グループ主体の活動を除く))を実施した。 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 2,907,304 | 487,000 | | | 2,384,000 | 36,304 |
| 事業費内訳 | 需用費96,406円 負担金及び交付金2,810,898円 合計2,907,304円 (負担金内訳:景観重要建造物・樹木の指定に関する交付金 180,000円、北瑛小麦の丘グラウンド暗渠整備工事助成 297,000円、クリスマスツリーの木付近電柱移設工事負担金 1,360,818円、赤い屋根の家補修工事助成 973,080円) | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|---|-------|--------------|------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 事業対象者 | 把握方法 | 事業実施による聞き取り等 | | |
| | 意図・内容 | 現状の景観保全に関する取り組みや支援策についての意見の把握 | | | | |
| | 意見・反応等 | 自発的に景観保全に関する取り組みが実施されるなど町民主体の活動に反映されている。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 21 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | 住民が主体となった景観保全に関する取り組みを推進するとともに、助成事業の活用や景観セミナー等の開催による景観づくりの意識向上を図り、より実践的な活動の輪を広げることが重要である。 | | | | |
| 要望の有無 | あり・なし | 要望内容 | 事業の継続 | | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------------|--|-------------------------------------|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 美しい景観を保全することを目的にした活動の推進や支援として必要。 | 5 | |
| 事業効果 | 4 | 景観づくりの活動に対して町民の理解を深めることに繋がっている。 | 4 | |
| 町が実施することの妥当性 | 4 | 積極的に町民主体の活動が展開される契機としてセミナーを実施している。 | 4 | |
| 事業の効率性 | 4 | セミナーにおいては、景観づくり活動の実践には至っていない。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 助成制度対象者に景観保全上の問題点や必要な支援策等を聞きとりしている。 | 4 | |
| 合計 | 21 | | 21 | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 本事業の主たる事業は、美瑛町の美しい景観を守り育てる条例に基づく助成と景観まちづくりセミナーの開催である。助成制度は、景観重要建造物及び樹木の所有者に対する助成を行っており、美瑛町を象徴する景観の保全に効果を果たしているが、長期的な保全の見地から助成の方法を検討する必要がある。景観まちづくりセミナーでは、ワークショップでの話し合いを踏まえガーデニング&ガーデンフォト教室を開催した。町民主体の実践的な活動を継続する中で、参加者が景観づくりについて考える機会となっている。 | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係): 住民生活課 住民生活係

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|---|-------|------|---------------|---------|---------|
| 事務事業名 | 蜂駆除事業 | | 事業年度 | 平成13年度～(毎年実施) | | |
| 事業目的 | スズメ蜂等の危険な営巣を撤去することにより、地域の安全な生活環境を確保する。 | | | | | |
| 事業概要 | 蜂の巣駆除費用の補助(巣1つ当たり4,000円を上限、住民負担6,000円程度) ・平成30年度実績: 82件×4,000円=328,000円 町公共施設等の蜂の巣駆除の実施(専門業者による処理分) ・平成30年度実績: 3件×10,000円=30,000円 町公共施設等の蜂の巣駆除の実施(担当職員による処理分) ・平成30年度実績: 42件 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 358,000 | | | | | 358,000 |
| 事業費内訳 | 役務費(駆除手数料): 358,000円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|---------------------|-----------|------|------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 町民 | 把握方法 | 聞き取り | | |
| | 意図・内容 | 蜂の巣駆除に対し、その費用の一部を補助 | | | | |
| | 意見・反応等 | 地域の安全な生活環境が図られた | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 25 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | | | | |
| 要望の有無 | あり・なし | 要望内容 | 補助金の継続を要望 | | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------------|---|----------------------------------|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 安全な生活環境の確保のために必要な事業と考える。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 町民の負担軽減と安全確保に寄与している。 | 5 | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 他に助成制度は無いため、妥当であると判断している。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 5 | 駆除業者への依頼等、迅速な対応を行っている。 | 5 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 助成制度について広報紙やホームページで周知し、随時受付により把握 | 5 | |
| 合計 | 25 | | 25 | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 担当職員による町公共施設等の駆除も実施しており、事業費の縮減に努めている。 ※高所や狭所等の営巣撤去については専門業者に依頼 | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係):保健福祉課地域包括支援センター支援係

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|---|-------|------|------|-----------|------------------------|
| 事務事業名 | 介護予防・日常生活支援総合事業 | | | 事業年度 | 平成30年度 | |
| 事業目的 | 要介護状態等となることの予防又は要介護状態等の軽減や悪化防止及び地域における自立した日常生活の支援を実施することにより、住みなれた地域で高齢者一人ひとりが活動的で生きがいのある生活や人生を送ることができるように支援することを目的として実施する。 | | | | | |
| 事業概要 | * 介護保険法の改正により平成29年4月から要支援認定者の訪問・通所サービスを町で実施 ・介護予防・生活支援サービス事業①通所型サービスA(短時間リハビリ特化デイサービス)延193人②生活支援サービス(訪問・通所サービスの一体的提供)延60人 ・一般介護予防事業①介護予防訪問240人②生きがいデイサービス180回延1,437人③音楽療法36回延460人④地域サロン15か所延2,382人⑤地域リハビリテーション活動支援52回 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 11,603,680 | | | | 8,161,636 | 3,442,044 |
| 事業費内訳 | 臨時職員賃金(3,653,800円)報償費(1,785,000円)需用費(59,756円)役務費(59,000円)委託料(6,046,124円) 合計11,603,680円 | | | | 備考 | 生きがいデイ利用料等 474,600円 |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|---|-------|-------------|------|--|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 65歳以上高齢者(サロンのみ全町民) | 把握方法 | 利用実績やアンケート等 | | |
| | 意図・内容 | 全ての事業について1か月ごとに実績報告をまとめる | | | | |
| | 意見・反応等 | 各事業利用者は事業を開始した平成29年度よりも増えており、楽しみをもって参加している方が多い。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | | 評価点 | | 評価内容 | |
| | 過去の評価に対する分析 | | | | | |
| 要望の有無 | あり・なし | 要望内容 | 事業の継続 | | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------------|---|--|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 介護予防に取り組む機会を増やすことができる。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 心身の機能悪化を予防し、楽しみのある自立した生活を送ることができる。 | 5 | |
| 町が実施することの妥当性 | 4 | 地域サロンは、今後住民主体で地域に広がるのが望ましい。 | 4 | |
| 事業の効率性 | 4 | 広報チラシ等で周知利用者拡大に向けて取り組んでいる。また、国保データベースの活用により、介護予防が必要な方へ個別訪問を実施している。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | サロン参加者等にアンケートを行い、事業内容の見直しに生かしている。 | 5 | |
| 合計 | 23 | | 23 | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 要支援者だけではなく、一般高齢者も含めた活動の場の確保、リハビリ等専門職のかかわる機会を作って、介護予防に取り組むことができる。地域サロンについては、今後より身近な地域での展開が図られることが望ましい。 | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係): 保健福祉課健康づくり係

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|--|-------|------|-----|---------|---------|
| 事務事業名 | 産後母子ケア費用助成事業 | | 事業年度 | H30 | | |
| 事業目的 | 出産及び出生後おおむね1か月の産婦・乳児に対し、産婦の心身の不調や育児不安から起こる虐待の予防と子どもの障害要因の早期発見のために実施した検査・健診等に係る費用の助成をすることで、専門医療機関や助産所等に気軽に相談できる環境を整える。 | | | | | |
| 事業概要 | 出産(出生)日及び母子ケア実施日に美瑛町に住所を有する母子を対象に、出産(出生)後おおむね1か月までの間に医療機関等で実施した母子ケアについて、子ども一人当たり1万円を上限に費用を助成する。(主な内容と実績: 新生児聴覚検査13件、1か月児健診6件、母乳ケア外来4件) 産婦健診については、道の協定に基づく委託により産婦1人当たり産後2回の健診について助成。H30年度実績32人/33人(30年度届出で年度内出産者) | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 628,784 | | | | 300,000 | 328,784 |
| 事業費内訳 | 周知用チラシ紙代 3,888円、産婦健診委託料 225,000円、 その他母子ケア 99,896円 合計 328,784円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|--------------------|-------------------------------------|------|------|--|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 産婦及び乳児 | 把握方法 | 聞き取り | | |
| | 意図・内容 | 申請漏れが無いように周知し、効果検証 | | | | |
| | 意見・反応等 | 費用助成については良好な反応。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | | 評価点 | | 評価内容 | |
| | 過去の評価に対する分析 | | | | | |
| 要望の有無 | あり・なし | 要望内容 | 費用助成は好評だが、内容について宿泊型のケアや家事ヘルパー等希望あり。 | | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------------|---|--|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 産後不安や悩みを抱える産婦が増え、物理的・精神的な支援が求められていることと乳児に必要な検査を実施するため。 | 5 | |
| 事業効果 | 4 | 新生児聴覚検査の実施率向上、産後健診等で専門医療機関等への相談機会を確保できたが、生活支援も含め複合的な支援が必要なケースには対応できていない。 | 4 | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 新生児聴覚検査は、難聴の早期発見に有効であり、受診勧奨を含めた実施の必要がある。また、核家族化、移住・新規就農等で育児支援がない家庭等に対する相談機会の創出としても期待できる。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 5 | 妊娠期、出産後訪問、育児教室等で事業の周知徹底を図っている。 | 5 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 上記周知機会や申請手続き時等に実施 | 4 | |
| 合計 | 23 | | 23 | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 新生児聴覚検査については、分娩施設により実施できないケースもあるため、他機関での受診を促し全員に実施できるように周知していく。産後ケアについては、産科施設での宿泊ケアや家事ヘルパーなどの希望もあり、助成の内容の拡大、見直し等検討が必要。(産後の心身状況・生活実態より、全産婦の4割程度に利用ニーズがあると推測) | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係): 経済文化振興課

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|--|---|------------|---------|------------|----------|----|
| 事業名 | 白金エリア再構築事業 | | | | | | |
| 事業年度 | 平成30年度～ | 事業実施場所 | 美瑛町字白金 | | | | |
| 事業目的 | 町道美望ヶ原ビルケ線を延伸し、青い池駐車場を整備することで道道の渋滞を緩和するとともに、利便性を向上することで、山岳エリアの滞在観光を振興する。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 306,432 千円 | 千円 | 296,582 千円 | 9,850 千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 5,600 千円 | 千円 | 5,600 千円 | 千円 | |
| | | 地方債 | 289,500 千円 | 千円 | 280,000 千円 | 9,500 千円 | |
| | | その他特定財源 | 6,929 千円 | 千円 | 6,929 千円 | 千円 | |
| | | 一般財源 | 4,403 千円 | 千円 | 4,053 千円 | 350 千円 | |
| 進捗率 | | | 0.00 % | 96.79 % | 3.21 % | | |
| 事業内容 | ①青い池駐車場設置工事 ②売店設置工事 ③トイレ設置工事 ○浄化槽整備工事 ○ビルケ周辺外構工事等 | 面積 ①8,444㎡ ②34.5㎡ ③32.4㎡ | | | | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | 駐車場(㎡当りの事業コスト) 事業費 145,919千円÷面積 8,444㎡ ≒ 17.3千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | トイレ(㎡当りの事業コスト) 事業費 39,096千円÷面積 34.5㎡ ≒ 1,133千円 | | | | | |
| | | 売店(㎡当りの事業コスト) 事業費 30,435千円÷面積 32.4㎡ ≒ 939千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | | |

● 評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 交通循環を良好に維持しながら、滞在観光を振興するために事業の継続が必要。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 美望ヶ原ビルケ線の延伸と青い池駐車場の大規模化により、観光道路と生活道路の分離が図られた。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 4 | スロープやユニバーサルトイレの設置によりバリアフリー化が図られた。また、インバウンド急増に対し、観光パンフレットや看板を設置しているが、マナーの普及等対策が課題。 | 4 | |
| 事業の効率性 | 4 | 遠隔地のため、整備後の維持管理に課題がある。管理コストへの充当財源の確保などを検討し、継続性のある効率的な仕組みが必要。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 3 | 道の駅や売店を通じて、観光ニーズを把握するとともに、近隣住民からの聞き取りを行う。 | 3 | |
| 合計 | 21 | | 21 | |

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 改善する内容を | 観光ニーズを把握し、管理財源を確保することで良好な環境を維持する。 |
| 備考 | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係): 経済文化振興課文化スポーツ推進室スポーツ振興係

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|--|---|-------------|-----------|------------|-----------|---------------------|
| 事業名 | 町民プール建設事業 | | | | | | |
| 事業年度 | 平成29年度～平成30年度 | | 事業実施場所 | 美瑛町丸山2丁目 | | | |
| 事業目的 | 町内にあったプールは建設から30年以上経過し、漏水等老朽化が激しく修繕等に係る費用は莫大な金額となるため新たなプール建設を実施。新プールは幼児から高齢者までが利用でき、スポーツの推進や健康増進を図ることを目的に建設した。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 947,456 千円 | 92,467 千円 | 834,555 千円 | 20,434 千円 | 翌年度以降 外構工事9/20工期 |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 60,470 千円 | 4,000 千円 | 56,470 千円 | 0 千円 | |
| | | 地方債 | 391,320 千円 | 620 千円 | 370,300 千円 | 20,400 千円 | |
| | | その他特定財源 | 466,300 千円 | 59,000 千円 | 407,300 千円 | 0 千円 | |
| | 一般財源 | | 29,366 千円 | 28,847 千円 | 485 千円 | 34 千円 | |
| 進捗率 | | 100% | 9.76 % | 88.08 % | 2.16 % | | |
| 事業内容 | 建築主体 S造 サイロ棟RC造 建築面積1284.11㎡ 建築主体・電気設備・機械設備ボイラー設備工事等 | | A=1284.11 ㎡ | | | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 千円÷延長 m = 千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費947,456千円÷面積1284.11㎡ = 738千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | プールならではの安全対策や誰もが使用できる環境を整備するために可動床を導入したことによりコストが高くなっている。また循環型社会の確立に向け熱源にチップボイラーを採用していることも要因の一つとなる。 | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|--|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 既存プールは老朽化が進んでおり、修繕には莫大な経費を要することが予想されたため、新たなプールの建設は必須であった。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | ソフト事業として水中運動や水泳教室を実施することにより、町民の健康志向への関心は高まっている。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 健康志向ブームもあり、積極的な利用がなされている。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 建設工事に係る懸案事項について関係機関や庁内の関係部署との調整を諮り、計画通りに事業を完了させることができた。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 町民アンケートの実施によりニーズの把握に努めた他、供用開始以降、プール利用無料券は1500人を超えており町民の1/6の方が利用している。 | 4 | |
| 合計 | 23 | | 23 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係): 経済文化振興課文化スポーツ推進室

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|--|-------|------|-------|-----------|---------|
| 事務事業名 | 人づくり育成事業(少年少女道外研修) | | 事業年度 | 平成2年～ | | |
| 事業目的 | 活力と魅力に満ちたまちづくりを推進するための人材育成 | | | | | |
| 事業概要 | 少年少女道外研修は道外でのさまざまな社会体験を通じ、児童生徒の将来に向けた意識の高揚を図るとともに団体活動を通しての連帯感、責任感等を養う機会とすることを目的に実施。 平成30年7月27日～30日、和歌山県太知町、熊野那智大社、南紀白浜町 小学生16名中学生5名 合計21名参加 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 3,288,336 | | | | 2,870,389 | 417,947 |
| 事業費内訳 | 旅費(職員旅費) 387,996円 消耗品費 29,951円 負担金補助金及び交付金 2,870,389円 合計 3,288,336 円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|--|-----------------------------------|-------------|------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 研修参加者 | 把握方法 | 事後研修及び感想文提出 | | |
| | 意図・内容 | ①事前・事後研修で目的を常に確認し、特に事後研修では何を感じたかを再確認した。②グループで、「考える」「話し合う」「発表する」といった、子どもたちの育成につながる機会を提供。 | | | | |
| | 意見・反応等 | 感想文では「知らなかったことが知れて良かった」「これから、学んだことを生かしてい行きたい」などの意見が多かった。また、保護者アンケートでも「意識が変わった」「自己管理ができるようになった」などの意見が寄せられた。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 25 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | 道外研修事業の内容は、研修参加者・保護者ともに十分理解されている。 | | | |
| 要望の有無 | あり | なし | 要望内容 | 事業の継続要望が強い | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------|-----|--|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 町外の文化に触れ、教養を養い、豊かな心を養うために必要である。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 学校・学年が違う子ども達が、事前研修からのグループ活動を通して、協調性・責任感・自発性を養い成長のきっかけとなっている。 | 5 | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | さまざまな家庭環境にある児童生徒が公平に参加できる。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 5 | 複数の旅行者から事業目的に沿った行程を提案してもらい選定しており、効率性は高い。 | 5 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 事業後の保護者アンケートや、社会の動向、町の状況等により、ニーズの把握に努めている。 | 5 | |
| 合計 | 25 | | 25 | |

| | |
|--------------------|--|
| 説明(現状分析・改善点等) | 前年度と同数の参加者であったが、美瑛町の未来を担う人材育成に寄与している。また、実施後の保護者アンケートでは「今後も続けてほしい」などの記載あるため、参加者のニーズを十分に把握し、一人でも多くの参加者が参加するよう今後とも実施していきたい。 |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | |
| 備考 | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 農業委員会事務局

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|--|-------|------|---------|---------|-----------|
| 事務事業名 | アグリパートナー協議会負担金 | | 事業年度 | 平成21年度～ | | |
| 事業目的 | 農業の担い手対策として、農業者及び農業後継者の配偶者確保を図る。 | | | | | |
| 事業概要 | パートナー紹介事業や美瑛町農協と連携し、協議会単独の出会いの場を提供するイベント等を実施。 事業実績: フィーリングチャンスinびえい(男性21名、女性17名)、大人の婚活(男性12名、女性13名)、 農業ヘルパーとの交流会(男性4名、女性4名)、ビーコネクト(男性12名、女性13名) ※その事業年度に成婚に結びつくとは限らないが、長期的な事業成果として成婚に結びついている。 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 1,000,000 | | | | | 1,000,000 |
| 事業費内訳 | 負担金及び交付金1,000,000円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|---|---|-------------|------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 事業参加者 | 把握方法 | 聞き取り、アンケート等 | | |
| | 意図・内容 | 事業の振返りや次回開催に向けた参加者ニーズの把握 | | | | |
| | 意見・反応等 | カップル成立はもとより、様々な出会いを通じ農業後継者の人材育成や結婚に向けた機運の醸成が図られている。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 23 | 評価点 | 23 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | 継続的な取組みが実施されていることにより、自発的な参加が促されると共に農業者の結婚に対する意識が高まっている。 | | | |
| 要望の有無 | あり・なし | 要望内容 | 事業の継続 | | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 基幹産業である農業の担い手対策における継続的な支援として必要。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | イベント等での出会いが成婚率の向上に繋がると期待できる。 | 5 | |
| 町が実施することの妥当性 | 4 | 町・美瑛町農協・美瑛町商工会が連携して事業を実施している。 | 4 | |
| 事業の効率性 | 5 | 富良野地方アグリパートナー協議会からの脱退により、分担金を皆減し、町単独事業数及び参加者数を増やした。 | 5 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 参加者からの聞き取りやアンケートを通じ、ニーズの把握と改善を行っている。 | 4 | |
| 合計 | 23 | | 23 | |

| | | | | |
|--------------------|--|--|--|--|
| 説明(現状分析・改善点等) | 美瑛町農協との共同事業として、年2回のフィーリングチャンス、年2回の大人の婚活、農業ヘルパーとの交流会等の事業を開催した結果、農業後継者における平成30年度の成婚者は5名(うち事業の参加経験者は2名)となっており、事業に対するニーズは高いと感じられる。引き続き、従前からの取組みに対し長期的な支援を実施すると共に新たなニーズに対応するため、新たに平成30年度より商工会とも連携し交流事業を実施する等、町全体での配偶者確保に向けた取組みをスタートさせた。 | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 農林課畜産係

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|--|-------|---------|-----|---------|---------|
| 事務事業名 | 家畜自衛防疫補助事業 | 事業年度 | 昭和56年度～ | | | |
| 事業目的 | 家畜伝染病を組織的及び計画的に防疫し、畜産経営の安定に寄与する。 | | | | | |
| 事業概要 | 家畜飼養者、関係団体で構成する美瑛町家畜自衛防疫組合に対し、防疫資材(石灰)の全戸配布や牛・豚などへの予防接種、PED防疫対策への助成事業、外国人観光客への防疫啓発や関係機関との対策強化に係る協議など家畜防疫に関わる活動などに対し補助する。 | | | | | |
| | | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 906,000 | | | | 422,000 | 484,000 |
| 事業費内訳 | H30家畜自衛防疫組合決算(千円) 収入(①上記事業決算額:906千円その他 ②畜産農家負担予防手数料:18,677、③補助金:JA905 中央酪農会議1,075 ④繰越金:902 雑入4 支出(①予防対策費:衛指協4,193、びえい動物病院1,266、豚サーコワクチン購入12,516、ワクチン助成1,380、PED消毒液194、消石灰278、防疫資材(看板含む)1,358)、獣医師補助員764、運営費84) | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|---|------------------------------------|------|------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 畜産農家 | 把握方法 | 聞き取り | | |
| | 意図・内容 | 町内の家畜における安定生産と、家畜の感染症を防止発生時の蔓延に対する予防対策。 | | | | |
| | 意見・反応等 | 家畜伝染病の発生防止と安定生産及び観光客への啓蒙が図られている。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 24 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | 各種予防接種及び石灰配布や看板設置により、近年病気の発生や蔓延はない | | | |
| 要望の有無 | (あり) ・ なし | 要望内容 | 家畜防疫関係団体からの要望が多い。 | | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 概要における事業の他にも、防疫に関わる各種事業を行うことが、農家の所得安定や家畜自体の育成にも必須と考えられる。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 過去のヨウネ病(牛)、PED(豚)などの病気発生以降、農家の努力もあり病気の発生・蔓延がない。 | 5 | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 町内の全家畜飼養者が家畜自衛防疫に取り組めるよう、町内関係団体の連携のもと、当該組合の事業支援を行うことは公益性が高い。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 5 | 豚コレラが国内で拡がる中、国や道等との情報を町内関係団体との連携により迅速に共有することで、注意喚起・対策意欲の向上が図られる。 | 5 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 外国人観光客増加に伴い、牛舎などへの無断立ち入りが増加し、海外からの疫病を危惧する声などが聞き取ることができ、当該組合への防疫全体における活動へのアドバイスなどニーズが高まっている。 | 5 | |
| 合計 | 25 | | 25 | |

| | | | | |
|--------------------|--|--|--|--|
| 説明 (現状分析・改善点等) | 家畜伝染病が発生している国からの観光客増加とともに、旅行者の採草地や牧場敷地内への無断立ち入りが未だ続いていることから、外部から家畜伝染病が持ち込まれることが懸念されている。 | | | |
| | 海外からの渡航者向けへの注意喚起の必要性を重視し、外国人を含むマナーの悪い観光客に対し、なぜ立ち入りが禁止なのかを把握できるような啓蒙を強化し、また、実際に伝染病などが発生した場合における連絡体制強化を今一度見直しつつ、従前からの取り組みを継続・強化する。 | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 農林課林務係

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|---|-------|------|---------|---------|---------|
| 事務事業名 | 林産業担い手対策補助事業 | | 事業年度 | 平成17年度～ | | |
| 事業目的 | 地域材の利用普及につながるような林産業の振興に寄与し、将来の林産業の担い手を育成することを目的とする。 | | | | | |
| 事業概要 | 「てっぽう虫の会」が主催する町民を対象とした美瑛産カラマツ材を使ったガーデンテーブル、 | | | | | |
| | フラワーラックやトランスフォーマーベンチを製作する事業等に対し補助する。 予算額: 240千円 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 240,000 | | | | | 240,000 |
| 事業費内訳 | てっぽう虫の会補助金 240,000円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|--------------------------------------|------|----------------------------------|------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | てっぽう虫の会(会長・事務局) | | 把握方法 | 聞き取り | |
| | 意図・内容 | 地域材を利用した日曜大工を通じて、町民の地域材に対する関心を深められた。 | | | | |
| | 意見・反応等 | 地域材(美瑛産カラマツ)の利用普及の促進につながった。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 24 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | - | | | |
| 要望の有無 | あり・なし | | 要望内容 | 町内林業関係者で構成された「てっぽう虫の会」からの補助金支援要望 | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 | |
|--------------------|--|--|------|-------|--|
| 事業の必要性 | 5 | 町民の地域材への関心を深めると共に、利用普及に向けた支援は必要である。 | 5 | | |
| 事業効果 | 5 | 町民が実際に地元産木材に触れることで、地域材に対する興味や関心が深められた。 | 5 | | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 将来の林産業の担い手育成の主体者であるてっぽう虫の会への独自支援である。 | 5 | | |
| 事業の効率性 | 4 | 町内林業関係者や商工会と連携を図りながら事業を実施している。 | 4 | | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | てっぽう虫の会が参加者アンケートを実施し、事業のニーズ把握に努めている。 | 4 | | |
| 合計 | 23 | | 23 | | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 事業の参加者アンケート分析を図り、ニーズを把握しつつ、地域材の新たな利活用方法の検討や将来の担い手対策として森林資源の関心向上に努めている。 | | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|---|---|--------------------------|--------------|--------------------------|-----------|----|
| 事業名 | 朗根内上俵真布線道路改良舗装工事 | | | | | | |
| 事業年度 | H22年度～R10年度 | | 事業実施場所 | 美瑛町字朗根内、字俵真布 | | | |
| 事業目的 | 道々天人峡美瑛線を起点とし「横牛・朗根内・俵真布」地区と美瑛町市街地を結ぶ幹線道路で、大型農業機械や建設車両のほか、国道237号から天人峡温泉等へのアクセス路として交通量が多い路線ですが、道路概況は凍上による舗装の亀裂や路肩が下がるなど損傷が著しく、一年を通じ安全で円滑な交通を確保し地域の活性化に資するもの。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 840,675千円 | 483,116千円 | 15,069千円 | 342,490千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 477,225千円 | 240,935千円 | 8,922千円 | 227,368千円 | |
| | | 地方債 | 342,600千円 | 226,200千円 | 5,800千円 | 110,600千円 | |
| | | その他特定財源 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | 一般財源 | 20,850千円 | 15,981千円 | 347千円 | 4,522千円 | |
| 進捗率 | | | 57.47% | 1.79% | 40.74% | | |
| 事業内容 | | L= 6,240m W= 5.5m | 改良L=1,900m 舗装L=1,900m | 片側暫定L=120m | 改良L=4,340m 舗装L=4,340m | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 840,675千円÷延長6,240m =135千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|--|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 地域と市街地を結ぶ幹線道路で、舗装の亀裂や路肩損傷が著しく、交通の支障となっているため、改良事業が必要 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 改良により、冬季路肩の確保と夏季の人と自転車の安全が確保される。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 農業経営の規模拡大や道々を起点とする建設機械など大型車両の通行に加えて通学路線指定を受け、安全性がより求められる。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。事業期間は農業関係排水事業と連携した事業期間設定で実施。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 「横牛・朗根内・俵真布」地区要望のほか地域住民からの聞き取り。 | 5 | |
| 合計 | 24 | | 24 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|---|---|------------------------|--------------------|--------------------|-----------|----|
| 事業名 | 町道 美沢17線道路改良舗装工事 | | | | | | |
| 事業年度 | H24 年度～ R1 年度 | | 事業実施場所 | 美瑛町 | | | |
| 事業目的 | 町道美沢17線は、道道十勝岳温泉美瑛線に接続し、美沢共立地区と市街地を結ぶ路線である。 美沢共立地区は、十勝岳噴火時の緊急避難区域に指定されており、本地域の町道については、 避難路として整備が必要な重要路線に位置付けられているが、現道は未改良のため路体が損傷 している。緊急避難路を整備し、自然災害に強い安心安全な地域の確立に資するものである。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 262,812 千円 | 229,352 千円 | 12,960 千円 | 20,500 千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 128,499 千円 | 111,427 千円 | 8,140 千円 | 8,932 千円 | |
| | | 地方債 | 124,600 千円 | 111,200 千円 | 4,500 千円 | 8,900 千円 | |
| | | その他特定財源 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | 一般財源 | 9,713 千円 | 6,725 千円 | 320 千円 | 2,668 千円 | |
| 進捗率 | | | 87.27 % | 4.93 % | 7.80 % | | |
| 事業内容 | | L= 1,703m W= 4.0m | 改良L=1573m 舗装L=1573m | 改良L=70m 舗装L=70m | 改良L=60m 舗装L=60m | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 262,812千円÷延長1,703m =154千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 十勝岳噴火時の避難道路に指定されているが、未改良の砂利道であるため、路肩損傷が著しく、安定性もないため、改良が必要。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 改良により、路肩の確保と、舗装道路となることで安定した走行性が確保できる。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 十勝岳噴火時の緊急避難区域に指定された地域と幹線道路をつなぐ町道であり、常に安定した走行性を確保することが求められている。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 地域要望のほか、地域住民からの聞き取り、対象地域は十勝岳噴火時の緊急避難区域。 | 5 | |
| 合計 | 24 | | 24 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|--|---|--------------------------|--------------------|--------------------------|------------|----|
| 事業名 | 町道 北瑛旭第6線道路改良舗装工事 | | | | | | |
| 事業年度 | H23 年度～ R5 年度 | | 事業実施場所 | 美瑛町 | | | |
| 事業目的 | 町道旭第6線は同地区と国道452号線を連絡する重要な路線で、美瑛町を代表する観光スポットや季節の彩りなど観光名所を巡るルートとして多くの観光客が訪れる路線であるが道路が狭隘で交通に支障となっているため、改良工事を実施し安全で円滑な交通確保を図り、地域の活性化に資するもの。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 650,566 千円 | 460,218 千円 | 19,667 千円 | 170,681 千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 357,464 千円 | 218,025 千円 | 12,540 千円 | 126,899 千円 | |
| | | 地方債 | 277,300 千円 | 229,000 千円 | 6,700 千円 | 41,600 千円 | |
| | | その他特定財源 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | 一般財源 | 15,802 千円 | 13,193 千円 | 427 千円 | 2,182 千円 | |
| 進捗率 | | | 70.74 % | 3.02 % | 26.24 % | | |
| 事業内容 | | L= 2,600m W= 5.5m | 改良L=1,300m 舗装L=1,300m | 改良L=18m 舗装L=18m | 改良L=1,200m 舗装L=1,200m | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 650,566千円÷延長2,600m =250千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 本町を代表する観光エリアで国道452にアクセスする幹線道路であるが、道路狭隘で交通の支障となっているため、改良が必要。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 改良により5.5mの幅員が確保でき安全で円滑な交通が確保できる。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 農業法人化による農業機械の大型化と本町を代表する観光地を巡る大型バスをはじめ、観光客滞在により生じている渋滞対策が求められている。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 地域要望のほか、地域住民からの聞き取り | 4 | |
| 合計 | 23 | | 23 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|---|---|------------------------------|------------|------------------------------|------------|----|
| 事業名 | 町道 美園村山線道路改良舗装工事 | | | | | | |
| 事業年度 | H23 年度～ R4 年度 | | 事業実施場所 | 美瑛町 | | | |
| 事業目的 | 町道美園村山線は同地区と道々美馬牛神楽線を結ぶ幹線道路で、農産物の集出荷や観光名所を巡るルートとして、多くの観光客が訪れる路線であるが、未改良で狭隘であるため交通の支障となっていることから、改良を実施し一年を通じ安全で円滑な交通を確保し地域の活性化に資するもの。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 623,504 千円 | 312,611 千円 | 12,636 千円 | 298,257 千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 371,136 千円 | 183,162 千円 | 5,443 千円 | 182,531 千円 | |
| | | 地方債 | 239,400 千円 | 123,774 千円 | 6,800 千円 | 108,826 千円 | |
| | | その他特定財源 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | 一般財源 | 12,968 千円 | 5,675 千円 | 393 千円 | 6,900 千円 | |
| 進捗率 | | | 50.14 % | 2.03 % | 47.84 % | | |
| 事業内容 | | L= 1,022m W= 5.5m 橋梁2基 | 改良L=600m 舗装L=480m 橋梁1基 | 舗装L=100m | 改良L=322m 舗装L=442m 橋梁1基 | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 623,504千円÷延長1,022m =610千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|--|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 農産物の集出荷や観光需要の増加による交通量が多く、安全確保のため、未改良路線の改良が必要 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 改良により5.5mの幅員が確保でき安全で円滑な交通が確保できる。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 農業経営の規模拡大や道々を起点とする建設機械など大型車両の通行により安全性が求められる。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 地域要望のほか、地域住民からの聞き取り | 5 | |
| 合計 | 24 | | 24 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課

(公共事業評価用)

| | | | | | | |
|--------------|--|---|------------|--------------------|----------------------|------------|
| 事業名 | 町道 旭千代ヶ岡線道路改良舗装工事 | | | | | |
| 事業年度 | H28 年度～ R1 年度 | 事業実施場所 | 美瑛町 | | | |
| 事業目的 | 町道旭千代ヶ丘線は旭、北瑛地区と国道237号線を連絡する重要な路線で、美瑛町を代表する丘陵写真スポットや季節の彩りなど観光名所を巡るルートとして多くの観光客が訪れる路線であるが、道路が狭隘で交通に支障となっているため、改良工事を実施し安全で円滑な交通確保を図り、地域の活性化に資するもの。 | | | | | |
| 事業費の状況 | 全体事業費 | | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 135,000 千円 | 10,564 千円 | 14,703 千円 | 109,733 千円 |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 79,112 千円 | 千円 | 9,302 千円 | 69,810 千円 |
| | | 地方債 | 53,094 千円 | 9,400 千円 | 5,100 千円 | 38,594 千円 |
| | | その他特定財源 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | | 一般財源 | 2,794 千円 | 1,164 千円 | 301 千円 | 1,329 千円 |
| 進捗率 | | | 7.83 % | 10.89 % | 81.28 % | |
| 事業内容 | | L= 600m W= 5.5m | 実施設計 | 改良L=80m 舗装L=80m | 改良L=520m 舗装L=520m | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 135,000千円÷延長600m =225千円 | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円 | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 本町を代表する観光エリアで国道237にアクセスする幹線道路であるが、道路狭隘で交通の支障となっているため、改良が必要。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 改良により5.5mの幅員が確保でき安全で円滑な交通が確保できる。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 農業法人化による農業機械の大型化と本町を代表する観光地を巡る大型バスをはじめ、観光客滞在により生じている渋滞対策が求められている。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 地域要望のほか、地域住民からの聞き取り | 5 | |
| 合計 | 24 | | 24 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|--|---|---------------------|-----------|--------------------------|-------|----|
| 事業名 | 町道 美望ヶ原ビルケ線道路改良舗装工事 | | | | | | |
| 事業年度 | H29 年度 ~ H30 年度 | | 事業実施場所 | 美瑛町 | | | |
| 事業目的 | 美望ヶ原ビルケ線は、道道十勝岳温泉美瑛線から近年国内外から80万人を超える観光客が訪れる観光地「白金青い池」を連絡する重要な路線である。当該路線は、一部が未改良となっているため、観光車両が道道十勝岳温泉美瑛線に集中することで渋滞が発生し、周辺交通に大きな支障となっている。当該路線を整備することにより一般交通との分離が図られ、安全で円滑な交通の確保に資するものである。 | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 232,900 千円 | 26,579 千円 | 206,321 千円 | 0 千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 122,990 千円 | | 122,990 千円 | 0 千円 | |
| | | 地方債 | 105,600 千円 | 26,500 千円 | 79,100 千円 | 0 千円 | |
| | | その他特定財源 | | | | | |
| | | 一般財源 | 4,310 千円 | 79 千円 | 4,231 千円 | 0 千円 | |
| 進捗率 | | | 11.41 % | 88.59 % | 0.00 % | | |
| 事業内容 | | | L=1,083m W= 5.5m | | 改良L=1,083m 舗装L=1,083m | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 232,900千円÷延長1,083m =215千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 青い池にアクセスする道路であるが、一部未改良になっている事により道道が渋滞となっている。渋滞解消のため、改良が必要 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 改良により青い池への交通と一般交通との分離が図られ、安全で円滑な交通の確保される。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 「白金青い池」へ訪れる観光客が年々増えており、道道十勝岳温泉美瑛線に集中し渋滞となっており、対策が求められている。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 道路構造令や交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 交通調査により渋滞状況を把握し、渋滞による周辺住民の影響を確認。 | 5 | |
| 合計 | 24 | | 24 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課

(公共事業評価用)

| | | | | | | |
|--------------|--|---|------------|----------------------|--------------------------|------------|
| 事業名 | 町道 旭美瑛線道路改良舗装工事 | | | | | |
| 事業年度 | H27 年度～ R3 年度 | 事業実施場所 | 美瑛町 | | | |
| 事業目的 | 町道旭美瑛線は同地区と国道452号線を連絡する重要な路線で、美瑛町を代表する観光スポットや季節の彩りなど観光名所を巡るルートとして多くの観光客が訪れる路線であるが道路が狭隘で交通に支障となっているため、改良工事を実施し安全で円滑な交通確保を図り、地域の活性化に資するもの。 | | | | | |
| 事業費の状況 | 全体事業費 | | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 553,956 千円 | 48,687 千円 | 19,364 千円 | 485,905 千円 |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 325,380 千円 | 3,043 千円 | 10,776 千円 | 311,561 千円 |
| | | 地方債 | 217,000 千円 | 43,300 千円 | 8,100 千円 | 165,600 千円 |
| | | その他特定財源 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | | 一般財源 | 11,576 千円 | 2,344 千円 | 488 千円 | 8,744 千円 |
| 進捗率 | | | 8.79 % | 3.50 % | 87.72 % | |
| 事業内容 | | L= 2,600m W= 5.5m | 実施設計 | 改良L=110m 舗装L=110m | 改良L=2,490m 舗装L=2,490m | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 553,956千円÷延長2,600m =213千円 | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円 | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 本町を代表する観光エリアで国道452にアクセスする幹線道路であるが、道路狭隘で交通の支障となっているため、改良が必要。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 改良により5.5mの幅員が確保でき安全で円滑な交通が確保できる。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 農業法人化による農業機械の大型化と本町を代表する観光地を巡る大型バスをはじめ、観光客滞在により生じている渋滞対策が求められている。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 地域要望のほか、地域住民からの聞き取り | 4 | |
| 合計 | 23 | | 23 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|--|--|------------|----------------|------------|-----------|----|
| 事業名 | 町道 白金美瑛支線両泉橋架換工事 | | | | | | |
| 事業年度 | H30 年度～ R1 年度 | 事業実施場所 | 美瑛町 | | | | |
| 事業目的 | 町道白金美瑛支線は、白金地区と美瑛町市街地を結ぶ白金美瑛線の支線であり、美瑛町の約8割に給水するための水道管の管理用道路として使用しているほか、十勝岳噴火時の避難道路として使用し、重要な路線である。当該箇所を整備し自然災害に強い安心安全な交通の確保を図り、地域の活性化に資するものである。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 193,000 千円 | 0 千円 | 159,808 千円 | 33,192 千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 123,134 千円 | 0 千円 | 96,523 千円 | 26,611 千円 | |
| | | 地方債 | 66,372 千円 | 0 千円 | 60,100 千円 | 6,272 千円 | |
| | | その他特定財源 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | 一般財源 | 3,494 千円 | 0 千円 | 3,185 千円 | 309 千円 | |
| 進捗率 | | | 0.00 % | 82.80 % | 17.20 % | | |
| 事業内容 | | 橋梁架設 1橋 | | 橋梁下部工 上部工製作 | 橋梁上部工 | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 193,000千円÷延長 37.5m = 5,146千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 = 千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 水道施設の管理用道路及び十勝岳噴火時の避難道路として、両泉橋が通行不可の状態のため架換が必要 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 架換により2径間を1径間にすることで自然災害に強い避難路として通行を確保できる。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 水道施設の管理用道路として、町内の約8割に供給する確保が求められている。また、十勝岳噴火時の避難経路として常に安定した走行性を求められている。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 道路構造令や将来の交通状況を考慮した道路構造で実施。事業は国庫補助制度や起債制度を活用。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 十勝岳噴火時の避難経路及び水道供給の確保 | 4 | |
| 合計 | 23 | | 23 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課都市施設係

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|--|---|--|--|-----------|-----------|----|
| 事業名 | 丸山公園改修事業 | | | | | | |
| 事業年度 | H23年度 ~ R2年度 | | 事業実施場所 | 美瑛町丸山1丁目 | | | |
| 事業目的 | 丸山公園は、昭和58年に供用開始した公園面積7.85haの町内唯一の運動公園であり、陸上競技場や屋内スポーツセンター等の施設が整備された公園であるが、供用開始から30年以上経過し、維持管理では対応できない範囲まで施設の老朽化が進んでいるため、美瑛町公園施設長寿命化計画に基づき改築更新を実施し、公園利用者が安心できる安全で快適な都市公園機能の確保を目指す。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 232,384 千円 | 152,953 千円 | 14,931 千円 | 64,500 千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 96,623 千円 | 73,788 千円 | 6,335 千円 | 16,500 千円 | |
| | | 地方債 | | | | | |
| | | その他特定財源 | 60,332 千円 | 42,736 千円 | 8,596 千円 | 9,000 千円 | |
| | | 一般財源 | 75,429 千円 | 36,429 千円 | | 39,000 千円 | |
| 進捗率 | | | 65.82 % | 6.43 % | 27.76 % | | |
| 事業内容 | | | 園路広場改修1式 競技場トラックスタンド改修 トイレ改修N=1棟 | 園路広場改修1式 競技場トラックスタンド改修 トイレ改修N=1棟 | 園路広場改修1式 | 園路広場改修1式 | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 千円 ÷ 延長 m = 千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 232,384千円 ÷ 面積 78,500㎡ = 2.96千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | バリアフリーや安全基準に合致しない施設、老朽化した施設の改修は急務。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 本町におけるスポーツ振興の中心的な公園であるほか、各種スポーツイベントでの利用も多く、施設改修の効果は高い。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 園路のバリアフリー化に加え、競技場スタンド及びトラック改修により、スポーツサークル等の日常的な利用に対応している。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 社会資本整備総合交付金の活用し、財源確保に努めているほか、「美瑛町公園施設長寿命化計画」に基づき、計画的な整備を実施。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 庁舎内検討会議による協議のほか、町教研からのヒアリングなど、社会体育施設としての施設整備を検討している。 | 4 | |
| 合計 | 23 | | 23 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課都市施設係

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|--|---|-------------------------------|------------|----------------------------------|------------|----|
| 事業名 | 憩ヶ森公園改修事業 | | | | | | |
| 事業年度 | H24年度 ~ R6年度 | | 事業実施場所 | 美瑛町憩町1丁目 | | | |
| 事業目的 | 憩ヶ森公園は、昭和61年に供用開始した公園面積7.66haの町内唯一の地区公園であり、豊かな緑に包まれた空間を活かし、健全な心身を育む場として親しまれてきたが、供用開始から30年近く経過し、維持管理では対応できない範囲まで施設の老朽化が進んでいるため、美瑛町公園施設長寿命化計画に基づき改築更新等を実施し、公園利用者が安心できる安全で快適な都市公園機能の確保を目指す。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 263,910 千円 | 104,343 千円 | 767 千円 | 158,800 千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 63,287 千円 | 37,994 千円 | 千円 | 25,293 千円 | |
| | | 地方債 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | その他特定財源 | 45,107 千円 | 32,400 千円 | 千円 | 12,707 千円 | |
| | | 一般財源 | 155,516 千円 | 33,949 千円 | 767 千円 | 120,800 千円 | |
| 進捗率 | | | 39.54 % | 0.29 % | 60.17 % | | |
| 事業内容 | | 園路広場改修1式 展望台・駐車場改修 遊具改修 ほか | 園路広場改修1式 展望台改修1式 実施設計1式 | 壁画資材購入1式 | 園路広場改修1式 遊具施設改修1式 休憩施設改修1式 | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費 千円 ÷ 延長 m = 千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 263,910千円 ÷ 面積 76,600㎡ = 3.45千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | バリアフリーや安全基準に合致しない施設、老朽化した施設の改修は急務。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 市街地の街区公園には少ない資源を活用した空間を整備するほか、ウォーキングやサイクリングの中継基地としての機能も整備。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | 園路のバリアフリー化、安全基準に合致した遊具に加え、催し広場のリニューアルによりイベント活用の促進が期待される。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 4 | 社会資本整備総合交付金の活用し、財源確保に努めているほか、「美瑛町公園施設長寿命化計画」に基づき、計画的な整備を実施。 | 4 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | H25に町民ワークショップを計3回開催。幅広い世代から意見を聴取し、リニューアル計画を検討している。 | 5 | |
| 合計 | 24 | | 24 | |
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 建設水道課都市施設係

(公共事業評価用)

| | | | | | | | |
|--------------|---|---|--|--------------------------|------------------------|-------|----|
| 事業名 | 丸山通り線道路整備事業 | | | | | | |
| 事業年度 | H24年度 ~ H30年度 | | 事業実施場所 | 美瑛町本町・栄町1丁目～南町・寿町4丁目 | | | |
| 事業目的 | 町道丸山通り線は、美瑛駅から中心市街地を通る本町の骨格をなしてきた重要な路線であるが、凍上劣化が著しい状況にあり、また、電柱や電線が架空で設置されていることにより街並み景観が阻害されているため、歩道拡幅と電線類地下埋設により安心安全な歩行空間の整備を進め、あわせて良好な景観の形成により丸山通り地区への誘客・活性化を図る。 | | | | | | |
| 事業費の状況 | | | 全体事業費 | 前年度まで | 当該年度 | 翌年度以降 | 備考 |
| | 事業費 | | 1,581,676 千円 | 1,374,314 千円 | 207,362 千円 | 千円 | |
| | 財源内訳 | 国・道支出金 | 702,000 千円 | 629,600 千円 | 72,400 千円 | 千円 | |
| | | 地方債 | 790,400 千円 | 700,600 千円 | 89,800 千円 | 千円 | |
| | | その他特定財源 | 71,185 千円 | 26,085 千円 | 45,100 千円 | 千円 | |
| | | 一般財源 | 18,091 千円 | 18,029 千円 | 62 千円 | 千円 | |
| 進捗率 | | | 86.89 % | 13.11 % | % | | |
| 事業内容 | | | L=1,062m、W=18.0m 歩道拡幅・無電柱化 ・高質空間形成施設 | 改良舗装L=978m 無電柱化L=978m | 改良舗装L=84m 無電柱化L=84m | | |
| 事業コスト | 道路等の場合 | (m当りの事業コスト) 事業費1,581,676千円 ÷ 延長1,062m = 1,489千円 | | | | | |
| | 建築物等の場合 | (㎡当りの事業コスト) 事業費 千円 ÷ 面積 ㎡ = 千円 | | | | | |
| 事業コストが高くなる理由 | 質の高い街並み形成に必要な事業のため(無電柱化、連続照明、歩道舗装等) | | | | | | |

●評価

| 評価内容 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|-------------|-----|--|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 南側市街地の中核路線であり、安全な歩行空間整備は急務。また、本通地区の観光客を誘客し、中心市街地全体の周遊が可能。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | 歩道拡幅と無電柱化によって安心安全な街路空間が確保される。 | 5 | |
| 社会情勢等変化への対応 | 5 | セミフラット歩道によるバリアフリー化が図られるほか、高質空間整備によって丸山通り商店街への誘客が促進される。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 5 | 社会資本整備総合交付金の活用し、複数の補助事業メニューによる財源確保に努めているほか、関係機関との協議を重ね、早期に事業が完了するよう計画している。 | 5 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 事業着手に際して設立された「丸山通り線街路整備事業連絡協議会」及び、美瑛町商工会を窓口としてヒアリングを実施し、街路整備にあたっての意見聴取を実施。 | 4 | |
| 合計 | 24 | | 24 | |

| | | | | |
|----------|--|--|--|--|
| 改善を要する内容 | | | | |
| 備考 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 建設水道課 管理係

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|---|-------|------|---------|---------|------------|
| 事務事業名 | 街路灯管理事業 | | 事業年度 | 昭和49年度～ | | |
| 事業目的 | 公設街路灯の維持管理と町内会管理の街路灯に係る費用の補助 | | | | | |
| 事業概要 | ・公設街路灯の維持補修、電気料 | | | | | |
| | ・町内会管理の街路灯電気料の補助(電気料の1/3補助) | | | | | |
| | ・町内会管理の新設街路灯及びLED灯への変更の設置費用補助(費用の1/2～3/4補助) | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 19,001,015 | | | | | 19,001,015 |
| 事業費内訳 | 需用費 14,090,060円、補助金等 4,910,955円 (うち電気料補助 2,011,955円、うち設置補助 2,899,000円) 合計 19,001,015円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|--------------------------------------|------|-------|-------------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 町内会・行政区 | | 把握方法 | 街路灯設置等計画を照会 | |
| | 意図・内容 | 前年度に設置計画を照会し把握。補助費を算定し予算編成時に反映させている。 | | | | |
| | 意見・反応等 | | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 24 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | | | | |
| 要望の有無 | あり | なし | 要望内容 | 事業の継続 | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 | |
|--------------------|---|---|------|-------|--|
| 事業の必要性 | 5 | 安全・安心なまちづくりを推進するため | 5 | | |
| 事業効果 | 5 | 町内会・行政区の費用負担軽減 | 5 | | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 公共性の高い事業への助成 | 5 | | |
| 事業の効率性 | 4 | 町内会等との協議により、適正な個所への設置を誘導するなど、効率的な事業が進められている。 | 4 | | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 予算編成時に街路灯設置計画の有無を町内会・行政区に照会し、その補助金相当分を予算に反映させている。 | 5 | | |
| 合計 | 24 | | 24 | | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 平成25年度よりLED化費用についても補助対象とし、補助率についても当初は1/3であったが、LED化を推進するため、平成27年度から補助率を1/2に変更した。さらに、H30年度より交差点等に設置されたハイウェイ灯のLED化については、公共性に考慮して補助率を3/4に拡充したことで、申請数が増加していることから、引き続き町内会等へ周知し、LED化を推進していきたい。 | | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 教育委員会管理課

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|--|-------|---------|-----|---------|--------|
| 事務事業名 | 小学生学習ルーム事業 | 事業年度 | 平成24年度～ | | | |
| 事業目的 | 本町児童の学習意欲の向上・学習習慣の定着・基礎学力の向上を図る。 | | | | | |
| 事業概要 | 小学生3～6年生を対象とした学習ルームを長期休業中(夏季・冬季)にそれぞれ3日間開設 | | | | | |
| | し、国語、算数、英語のふりかえり学習を実施。講師は、小学校の教育助手やALTを活用。 | | | | | |
| | 参加児童数:夏季休業中 延55人 冬季休業中 延130人 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 37,857 | | | | | 37,857 |
| 事業費内訳 | 事業消耗品 37,857円 | | | | 備考 | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|--|---|-------|------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 学習ルーム参加児童 | 把握方法 | アンケート | | |
| | 意図・内容 | 次回開催に向けた児童のニーズ把握、今後の学習内容等の検討 | | | | |
| | 意見・反応等 | 授業ipadなどのICT機材も取り入れ、指導者による授業の創意工夫もあり、大多数の児童からまた参加したいとの意見を得ている。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 23 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | 継続した取り組みが、学習の習慣づけに繋がりと学力の底辺の底上げにもなっている。 | | | |
| 要望の有無 | あり・なし | 要望内容 | 継続した取り組みをしてほしい。 | | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------------|---|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 学習に対する意識を高揚、家庭学習の定着を促す効果があり、今後も事業の継続が必要である。 | 5 | |
| 事業効果 | 4 | 休憩中にもITを活用し、自主的に学習する状況がみられる。 | 4 | |
| 町が実施することの妥当性 | 5 | 他校の同級生と共に授業を受けるため、中学ギャップを予防する効果もあり、町教委で実施することが効果的である。 | 5 | |
| 事業の効率性 | 5 | 講師に、町雇用の教育助手やALTを活用しており、費用の面からも効率性が高い。 | 5 | |
| 町民ニーズの把握 | 5 | 事業実施後の参加児童及び講師からアンケートを提出してもらい、毎回ニーズの把握と改善を行っている。 | 5 | |
| 合計 | 24 | | 24 | |
| 説明(現状分析・改善点等) | 回数を重ねるごとに参加児童が増加している。今後、未参加校の教諭にも状況を見学してもらおうよう促し、更なる参加児童の拡大を図りたい。 | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

令和元年(平成30年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書(事務事業評価用)

担当課(係) 教育委員会管理課

●事務事業の概要

| | | | | | | |
|-------|---|-------|---------|-----|---------|---------|
| 事務事業名 | 土曜学習事業 | 事業年度 | 平成27年度～ | | | |
| 事業目的 | 多様な経験や技能を持つ人材を講師として招き、座学・体験学習など、様々な角度から児童の学習に対する興味を引き出し、その後の学習意欲の向上につなげる。 | | | | | |
| 事業概要 | 「図画工作:参加者27名」、「科学実験:参加者27名」、「漢字:参加者20名」 | | | | | |
| | 「英語:参加者21名」、「算数:参加者15名」の5事業を実施 | | | | | |
| 事業決算額 | 総事業費 | 国庫支出金 | 道支出金 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 |
| | 219,970 | | 65,000 | | | 154,970 |
| 事業費内訳 | 講師報償費 203,455円、事業消耗品 16,515円 | | | 備考 | | |

●事務事業の目標・成果等

| | | | | | | |
|-------|-------------|---|--|-------|------|----|
| 成果・実績 | 対象者(誰に) | 参加児童 | 把握方法 | アンケート | | |
| | 意図・内容 | アンケートにより、本人も授業に対する振り返りを行うと共に、授業に対する児童の成果を把握 | | | | |
| | 意見・反応等 | 漢字や算数の授業においても「楽しかった」との感想が多く、ほぼ全ての授業が好評である。 | | | | |
| 過去の評価 | 年度 | 29 | 評価点 | 23 | 評価内容 | 継続 |
| | 過去の評価に対する分析 | | 休日における学習機会の提供はもとより、実験や体験・通常学校で学ばない手法による学習機会を提供することにより、その後の学習に対する好奇心も助長されている。 | | | |
| 要望の有無 | あり・なし | 要望内容 | 事業の継続 | | | |

●評価

| 評価項目 | 評価点 | 1次評価 | ※評価点 | ※2次評価 |
|--------------|-----|---|------|-------|
| 事業の必要性 | 5 | 家に籠りがちな児童にも外出を促す効果があり、また、教師以外の方から違った角度による学びの場の提供は、その後の学習意欲の向上につながる。 | 5 | |
| 事業効果 | 5 | アンケート調査からも、多くの肯定的な意見が寄せられており、事業の効果は高い。 | 5 | |
| 町が実施することの妥当性 | 4 | 児童の健全な育成と学びに対する意識の高揚に向け、町が実施することは妥当である。 | 4 | |
| 事業の効率性 | 5 | 補助金を活用しながら、専門の講師を招聘し実施している。 | 5 | |
| 町民ニーズの把握 | 4 | 参加者率も高く、保護者からのニーズも高い。しかし、前年度と同様の授業内容もあり、今後も改善は必要である。 | 4 | |
| 合計 | 23 | | 23 | |

| | | | | |
|--------------------|--|--|--|--|
| 説明 (現状分析・改善点等) | 児童アンケートからも、概ね事業に対するニーズは高いと感じられる。一方で科学実験や図工などには特に多くの児童が参加するが、国語や算数の授業には参加者がやや少ない傾向にあり、今後の授業内容に創意工夫も必要である。 | | | |
| ※評価に対するまちづくり委員会の意見 | | | | |
| 備考 | | | | |
| 総合評価 | ※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合 | | | |

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり